

千秀小学校 R5 年度全国学力・学習状況調査の報告

日ごろより本校の教育活動にご理解ご協力いただきましてありがとうございます。

令和5年4月18日および5月1日に小学校6年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の調査結果の概要をお知らせします。結果を真摯に受け止め、今後の本校の学習指導等に活かしていきます。調査は「国語」「算数」「質問紙調査」の3つに取り組みました。

国語

	平均正答数	平均正答率
千秀小	9.5/14	68%
神奈川県	9.2/14	66%
全国	9.4/14	67.2%

算数

	平均正答数	平均正答率
千秀小	9.4/16	59%
神奈川県	10.1/16	63%
全国	10.0/16	62.5%

【全体】平均正答率は、県・国と比べると、国語がわずかに上回り、算数はやや下回っていることがわかった。この結果から、千秀小学校の児童が、日々、学習に着実に取り組み、一般的な内容については定着していると考えられる。本校では日々の授業の中で「自分の考えをもつこと」を重点目標において授業を進めてきた。昨年度から引き続き、今年度も「学び合い、認め合う」ことに重点をおいて授業を進めているが、さらに教職員が具体的な手立てを打ち、共有して指導する必要がある。

◎成果

「知識・技能」の項目において、県平均、全国平均を上回る結果となった。中でも「文章の種類とその特徴について理解している」という趣旨の設問の正答率が93.0%、「送り仮名に注意して漢字を文の中で正しく使うことができる」という趣旨の設問の正答率は100%であった。日々の学習やマナビータイムでの取組を通して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができている結果となった。

▼課題

「思考・判断・表現」の項目において県平均、全国平均を下回る結果となった。例えば「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる」という趣旨の設問に対して、正答率が平均を約8%下回っている。また、「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」という設問の正答率は18.6%にとどまった。書くことへの苦手意識が見られたため、言語活動を工夫するなどして、改善を図っていく必要がある。

◎成果

「思考・判断・表現」の項目において、県平均、全国を一部上回る結果となった。わり算の筆算における商の意味を答える設問で、平均を約5%上回った。本校が取り組んでいる「学び合い、認め合う」ための手立てとして、友達と考えたことを伝え合う時間を設定したことが、この結果につながったのではないかと考える。

▼課題

「知識・技能」の項目において、県平均、全国平均を下回る設問が多かった。中には正答率が16.3%や34.9%にとどまるものもあった。自分の考えをもつこと、考えを伝え合うことはできるようになってきているものの、正しい知識・技能の習得に結びついていないことがわかった。授業時間の中に考えたこと、話し合ったことを活かす時間を取り入れるなどして改善を図っていく必要がある。

質問紙調査から、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の項目で、「当てはまる」と回答した児童の割合が全国平均を大きく上回った。地域と積極的にかかわろうとする本校児童の特色が表れている。また、「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「5年生までに受けた授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の項目で「当てはまる」と回答した児童の割合も全国平均を約10%上回る結果となり、「自分の考えをもつこと」を重点目標においてきた結果が表れた形となった。

また「学習の中でPC、タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という項目への「役に立つ」「どちらかといえば役に立つ」と回答した児童の割合は100%で、ICT機器の良さを感じている様子が伺えた。しかし「5年生までに受けた授業で、PC、タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という項目において、「ほぼ毎日」と回答した児童の割合は4.7%であったため、本校でも日々の学習の中でICT機器を効果的に活用していき、子どもたち一人ひとりに合った個別最適な学びをデザインしていく必要があると感じた。